

AMAKASHI 甘糧

Vol.104



榎原JC理事長×LUV K RAFT

「地元・榎原のために、
僕らができること。」

榎原JC理事長×宮崎JC理事長対談

LUV K RAFT
SNSの極意を伝授

河野理事長、南理事長に何う
地域と青年会議所

榎原JC理事長×LUV K RAFT対談 榎原JC理事長×宮崎JC理事長対談

榎原夢の森フェスティバル わんぱく相撲 榎原市長選挙 公開討論会 通常総会 ブロック大会

凡事徹底

～当たり前前のレベルを高めることが組織を高める～



2024年度 第52代 理事長 南 喬

当たり前前のことを当たり前前にはできないものに、明るい豊かな社会はつukれない。我々は JC 活動を含めた日々の生活の中、当たり前前のことを当たり前前できているでしょうか。世間の当たり前前と我々の当たり前前は大きく乖離していないでしょうか。ひとによって当たり前前の定義は違えど、組織としてのルールやマナーといった当たり前前のことをしっかりと理解し、徹底していかなければなりません。

また我々は奉仕、修練、友情の三信条をもって変革を起こしていく組織です。計画なきものに行動はなく、行動なきものに成功はなく、成否に関わらず振り返りのないものに発展と成長はありません。檀原青年会議所は日々の生活の中においても品格ある青年が活動している組織であることを自覚し、変革を起こす組織となっていかなければなりません。メンバーそれぞれが多角的な視点を持ち、当たり前前のレベルをさらに高めていくことで組織は強くなり発展していきます。一年ごとに役割が代わる青年会議所だからこそ、我々は次代がより高い視座をもつよう導いていく必要があります。

基本方針

- ①本質を理解した事業構築の実施
- ②輝く個性を調和させるリーダーの育成
- ③当たり前前のレベルを高める人財育成
- ④共感してくれる仲間をつくる事業の実施
- ⑤次代に伝統と理念を伝播する日々の言動
- ⑥地域と連携し、想いをもった事業への参画と支援の実施
- ⑦夢溢れる青少年を育成する事業の実施
- ⑧出向先に関心を持ち、出向者への全面的支援並びに出向先への協力と連携

檀原青年会議所の
SNSやHPはこちらから



contents

- 3P 理事長挨拶
- 4-5P 檀原青年会議所 理事長 × ラブクラフト対談
- 6-7P 檀原青年会議所 理事長 × 宮崎青年会議所 理事長 対談
- 8P 檀原夢の森フェスティバル
- 9P わんぱく相撲
- 10P 檀原市長選挙 公開討論会
- 11P 檀原青年会議所事業 通常総会
- 12P ブロック大会 / 新入会員募集

JCI Kashihara





榎原青年会議所 理事長

conversation
対談

LUV K RAFT

南：榎原市応援親善大使である、「LUV K RAFT」さんのお二人から榎原市はどう見えるか、また、SNSを使いこなすお二人に質問させていただきます。

南：お二人にとって榎原市とはどのようなイメージをお持ちですか。
KAREN：ライブも度々させていたいただいてありますが、そこで出会えたスタッフさんであったり、お客様も温かい人が多いと思います。夢フェスなども盛り上げていたいただいて、その節はありがとうございました。
南：2018年、2019年にも出演していた思い出があります。今後も様々なイベントにご協力よろしくお願いたします。

榎原市応援親善大使になる前と、なった後でイメージなど感じ方が変わったことはありませんか。

KAREN：榎原市応援親善大使になる前から榎原市は素敵だと思っておりましたが、任命されてからはもっと榎原市の魅力を色々な人に広めたいという責務が生まれました。榎原市の方々は榎原市の魅力をまだ分かり切れてないと思います。地元の方からすると対外に出すほどじゃないと思われているのかもしれないですが、本当に素敵なまちだなと感じています。知人ぞ知る場所という点で私たちが伝えていきたいなと思います。

南：今後の榎原の地域で何かしたいと考えていることはありますか？

Mishu：まずはライブです。音楽を通して榎原の魅力を伝えていきたいなという思いはやはり強いです。街ブラもしたいなあと考えてます。

南：我々の組織や事業に対してどのようなイメージを持たれていますか？

Mishu：青年会議所という名前から堅いイメージを持ってしまいがちですが、夢の森フェスティバルで地域を盛り上げたり、わんぱく

相撲で日本の文化である相撲を子供たちに体験させるなど、地域の方達と一緒に盛り上げる活動をされているのが素敵だと思いました。また、反省例会があることを知りそれも印象的でした。

南：反省例会は私たち榎原青年会議所の独自の高い取り組みです。各委員会の事業活動を振り返る機会になっており、組織の成長を促す時間となっております。

KAREN：どのような雰囲気なんですか？
南：各委員会の一年間の活動を振り返り、検証し、反省点や気づきの発表をする事業になります。すごくポジティブな雰囲気のもと行われていますよ。

Mishu：すごく良い取り組みですね。私たちもデビューから11年間、毎ライブ後にみんなで反省会を行っています。反省会では「自分のことを棚に上げて話そう」というのをテーマに行っていて、「自分の反省は自分ですな。」というような中身で行っています。

「他のメンバーが見てくれてるから、自分の反省は自分でしなくて良い」ではなく、他の人の気付いた部分を見なさいというのがLUV K RAFTの反省会です。どれだけ、自分を棚に上げて話さずか、自分が大きなミスをして相手も指摘する私が、「あかんかったー」じゃ進まないのよ、「こうした方がいいよ」というような話が多いです。

南：素晴らしいですね。KARENさんもMishuさんも、すごくSNSを更新されているとは思いますが、今、特に注目されているSNSはありますか？

Mishu：SNSはすごく力を入れて運用していて、力を入れるポイントがそれぞれ違って

例えば、Xであれば、ライブ告知を一番先に発信し、テキストでわかりやすいことをまとめ更新する。インスタグラムでは、私たちの顔を覚えていただきたいので、全面に顔が出ている写真とか、映像とかをアップする。YouTubeでは、生で私たちを見て欲しいので、ライブ配信をメインで行います。TikTokではカバー動画をあげるなど、全て趣旨を変えて運用しています。

南：それぞれの特徴に合わせてSNSを使い分けられているイメージですね。

KAREN：私たちのコンセプトがネオ平成と言って、NEOのネオなんですけども、私たちが生まれ育った平成で聞いてきた楽曲を、この令和の世代でも表現し続けたいなっていうのがコンセプトにあるんです。なので、そういう要素を詰め込んだ、新曲、楽曲を作り、10周年の時では、「春色」も榎原の新沢千塚古墳の桜の下で撮らせていただきました。

南：そうなんですね。あの歌は、すごく素敵だなと思って聞かせていただきました。

KAREN：嬉しいです。オリジナル曲は他にもたくさんあるので、よかったです是非色々聞いてみてください。

南：あと、青年会議所のインスタグラムを見ていただいて、正直なご意見をいただければと思います。

Mishu：先ほど言ったように私たちもまだまだ試行錯誤していて、正解を探しながらやっている段階なので、アドバイスということは言える立場ではないのですが、私たちのやり方としては、一番の推しポイントを全面に惜しみなく出すことです。意外とそれが正解だったのかなと思います。推し出し方っていうのは、例えば

画像の順番であったり、写真の撮り方や画像の作り方、文章の作り方などをこだわって、推し出したい部分を印象付けることです。わかりやすいとこで言うと、二人は前に出て歌わしてもらってるので、ツインボーカルのハーモニーの部分をもっと聞いていただきたいなあって思っていたので、まずはその部分を全面に出して、ハモリをメインにアップしていたら、徐々に広がったという形になります。一番初めは、ノーバディノーズさんのココロオドルをあげた時に一気に今までは違う数字が出て、知っていただけだった数字になりました。最終的にはLUV K RAFTという名前が認知されれば良いかなっていうゴールを持って、先にカバー曲をアップし、二人の存在を知ってもらってから、徐々にオリジナルを聞いてもらい、ライブに来てもらえるようになる、という段階を踏んでいきました。

南：我々は少し反省しないダメだなと今聞きながら思いました。アップすることが目的になってはいけないということなんだろうなと思います。青年会議所は毎月、例会というのを必ず行っています。その例会が一番推すべきところをもっと推していかないとけないかなと改めてお話を聞かしてもらいながら思いました。

KAREN：実は私も正直SNSが全然得意ではなくて、この役職を預かるにあたってやっとインスタ始めたぐらいなんです。

南：そうだったんですね。でも今回お話を聞き、もっと勉強し、試行錯誤していく必要があるなと感じました。



SNSでは自分の推し出しポイントを

惜しみなく出すのが正解だった



榎原JC理事長 × 宮崎JC理事長 対談

今回の対談では、姉妹都市である榎原市と宮崎市の青年会議所 理事長お二人をお迎えし、それぞれのLOMでどのようにリーダーシップを発揮しているか、どのような課題を持ち、挑戦をしているのか、また今後の目標についてもお話を伺ってきたいと思います。

ファシリテーター：榎原青年会議所 総務広報委員会 委員長 田野 誠

田野…今回、甘樫という会報誌を作るにあたり、榎原青年会議所の今年のスローガン『凡事徹底』に因みまして、兼ねてから様々なシーンで交流をさせていただいている宮崎青年会議所と榎原青年会議所の理事長対談をさせていただく運びとなりました。

南・河野…よろしくお願ひします。

田野…では早速ですが、お二人はなぜ青年会議所に入会されたのでしょうか？

南…私の場合は、山本先輩という方がいてまして、その方は歴代理事長初めの女性理事長になられた方なんです。その方のお父様からの紹介で山本先輩を紹介してもらい、お話をさせていただいたのがきっかけでした。初めはまだ建築士の資格もなく、周りからの反対もあり、先送りにしていたのですが山本先輩の熱意に惹かれ入会を決意しました。

河野…宮崎ブロックは少し特殊で、各市にしか青年会議所がありません。私が社業を行っている場所にはこのがなく、商工会しかなかったんです。そして私が30歳でサラリーマンから家業に帰ってきた時に、当然ですが人脈が必要というところと自己成長を考え、当時の理事長である野崎理事長からお誘いをいただき入会を決めました。

田野…ありがとうございます。では理事長になられてからの心境の変化についてお聞かせください。

河野…そうですね、私は青年会議所に入会して10年になるんですが、全ての役職を経験した中で昨年は日本青年会議所の議長委員長もさせていただきました。

その中で一番重たいなと感じたのが理事長という立場ですね。というのも今まではビジョンを示してくれる人がいたのに対し、理事長だけは自分でビジョンを構築しなければならぬ、周りを引っ張っていかねければならない。そんな重たい職を受けるにあたって、かなり自分なりにスイッチを切り替えましたね。

南…私が一番変化があったのは、公私ともにいつも誰かに見られているという意識ができましたね。今までは誰かに頼ることが可能だったのが理事長という職になるとメンバーには支えられているが頼っては行かない。自分が引っ張っていかねければいけないという覚悟をしました。

田野…ではお互いのまちな印象をそれぞれ教えていただけますでしょうか。

河野…榎原市はやはり榎原神宮というシンボルの大きさがすごいところではありますね。榎原で言うところでは日本青年会議所の会頭が榎原神宮に参られる引率であったり、ブロック訪問も奈良ブロックから始まる。そういったことからしても榎原青年会議所から始まるという過言ではないので、その部分がやはり印象的です。

南…そうですね、まず宮崎のまちとしてもこのように思うのは、このまちに受け入れられているなというところがすごく印象にあります。我々の課題でもあるこの認知度の低さを感じる中でその中でも宮崎のさんは神宮大祭を通して地域の方々がこの存在意義を掻き立てているように感じます。

田野…ありがとうございます。宮崎青年会議所が抱える課題はありますか？

河野…直近の課題はなってくるのの一つが入会してから間もないメンバーが卒業してしまうのが気になります。歴史を知らずにこの去ってしまうというところが非常に課題を感じます。今年の会員拡大委員会は20代が多く、アカデミー教育等の育成が大きなポイントになるかなと思っています。本年は例会を計4回使って、育成系の事業を実施予定しています。青年会議所に所属している目的を再確認できるように取り組んでいます。

南…私達も会員の育成等同じような課題を抱えております。委員会についても会員拡大委員会から会員拡大育成委員会に変更してアカデミーに力を入れていきたいという想いは、私も強く持っています。課題もたくさんありますが、その中でも対外への認知度の低さは痛感しておりますし、歴の浅い会員が多くなっており、今まで受け継がれてきた青年会議所の本質的な魅力についても、なくなっていく可能性があるのではと危惧しております。先輩が当たり前に行ってきたことを引き継ぐ、そして良いものは次の世代へ残していく、当たり前のことが当たり前にできる会員を増やし組織の強化を図りたいと考えています。そういった意味も込めて本年のスローガンを「凡事徹底」としております。



宮崎青年会議所では今年「躍動感」「利他の心」というスローガンを掲げています。行政や政治との深い連携が必須になると考えており、民間と行政と政治が踏み込んだ関係になることが地域の発展には必要不可欠です。みんなで創っていくという精神を持ってもらうために「共創」というテーマを掲げ、「躍動」に関しては、メンバーが能動的に動くという思いが込められています。

田野…ありがとうございます。我々の活動において何かアドバイスがあれば頂きたいのですがいかがでしょうか？

河野…姉妹都市という絆は切っても切れないと考えておりまして、包み隠さずお伝えすると、榎原青年会議所様が何を考えて何をしようとしているのかの共有が少ないうちに思っています。先ほどの話にもつながりますが掛け合わせることができるのであればより良いものができるのではないかと思います。

南…議案ポケットのようなものですかね。

河野…議案の文章の背景や目的についてしっかりと考え伝えるように解像度を上げていきたいなと思います。それがこういった場なのかとも思っています。

南…確かにそうですね。お互い基本方針を見合せて、今年はどうなことをするんですかなど聞いたら面白いですね。

河野…面白い事業をやっている会議所はいっぱいありますし、ちょっと連携したらもっと面白くなることもありますもんね。そういった取り組みを増やしていくと持続可能な青年会議所になるんじゃないかなと。

南…それが線と線がつながって面白くなる。そんな組織になればJCはもっと強くなれますもんね。そこを目指していきたいですね。



Wanpakusumo



わんぱく相撲は、小学1年生から6年生を対象に、日本国内200地区(主催青年会議所単位)の予選大会から勝ち上がり、両国国技館で全国大会が開かれる、最大規模の相撲大会のことです。毎年4月からLOM(ロム)大会と呼ばれる、その地区ごとの予選大会が始まります。LOM大会と呼ばれるのは、各地方の青年会議所が中心になって行われ、その地方青年会議所のことをLOM(ロム・Local Organization Member)と呼ぶためです。LOM大会で勝ちあがると、ブロック大会と呼ばれる都道府県代表を決める最終予選大会が開かれます(都道府県によっては開かれませんが)。ここで代表選手に選ばされると、大相撲と同じ土俵でもある両国国技館で、各学年のトーナメント形式の取組が行われます。地方大会からの参加者は、約40,000人。まさに、日本の小学生力士の晴れ舞台です。



2024年度青少年育成委員会 委員長
大畑 有輝

例年行われているわんぱく相撲榎原場所ですが、今年出場される子供達には相撲という競技を通じ、挑戦し続ける強い気持ちの大切さを学んでいただきたいと思います。今年は団体戦も行いみんなで力を合わせて相撲に挑んでいました。



Yumenomori Festival



「榎原夢の森フェスティバル」は、今年で23回目の開催を迎え、地域住民から「夢フェス」「夢森」と親しまれている「市民参画型」のまつりであり、地域社会発展に寄与するために開催しております。キッズダンスや各種団体が披露するステージ、榎原市、高取町、明日香村三宅町、田原本町、川西町等や榎原市の姉妹都市である宮崎市にちなんだ飲食ブース、子どもが職業体験や運動、緑日のような遊びが出来る子ども広場、一般の方がブースを出展するフリーマーケット等、子どもだけでなく家族が一日楽しめるまつりです。昨年、コロナの大変な時世から笑顔のある日常に戻りたいという想いも込めて「SMILE AGAIN 2023」と題し、外で思いっきり楽しめる内容を企画しました。楽しむだけでなく、子どもたちを含めた市民が「ジブンゴト」として参加するまつりを目指して開催します。



2024年度 まちづくり委員会 委員長
西川 容規

実行委員会が一丸となって子供から高齢者の方まで世代を問わず楽しんでいただけるよう準備をしています。毎年行きたいな、夢フェスやっぱり良いよな、私達も参画してみたいなと想っていたるように、未来に繋ぐ架け橋のようなまつりにしたいと考えています！皆様是非遊びにきてください！！



地元のキッチンカーが集まり、50以上のお店が並びます。地元の住民やお店が一堂に会し、地域コミュニティのつながりを深める機会ともなります。



ステージ広場では多くの人で賑わい、子供ブースや、音楽、ダンスなどパフォーマンスが楽しめます。有名なアーティストやバンドが演奏し、イベントを盛り上げます。

通常総会



総会とは青年会議所の最高決議機関です。

理事会では役員しか質問や意見を言うことができませんが、総会では会員全員に質問や意見を言うことができます。通常の総会では、前年度補正予算（案）承認の件、今年度役員（案）承認の件など本年度と次年度の案件が決議されます。同じ組織にて活動する上で、疑問に思っていること知りたいこと、聞きたいことがあれば、明確にできる場となっております。

我々には『定款』に定められたルールがあり、組織の法的基盤や運営に関する規定が示されています。これは通常、「定款」や「規約」と呼ばれ、組織の目的、構造、会員資格、指導組織の構成、役員を選出方法、会議の開催頻度などについて規定されています。定款は組織の透明性を確保し、メンバー間の一貫性を維持するための基本文書となります。

この定款に基づき様々な事柄を総会にて一年の内3回に分けて様々な事を取り決め、青年会議所は運営されています。



2024年度 総務広報委員会 委員長

田野 誠

総会や定款について今まであまり関心を抱かずに組織の一員として活動していましたが、自分が総務広報委員長になり総務を担当するあたり、様々な事柄にフォーカスをあて、改めて総会や定款の重要性を知りました。若いメンバーが多い中、締める所は締める、ルールはきちんを守る。当たり前の事ですがその点をしっかり次世代のメンバーに伝えていけるよう尽力していきます。



檀原市長選挙 公開討論会



会場には多くの市民が参加し、Youtube Liveではアーカイブで1000人の方に閲覧されました。



檀原市長選挙の公開討論会を開催させていただきました。駅近くの野外で開催し、Youtube Liveでも生配信するなど、多くの市民に参加していただきました。公開討論会の開催は、透明性や民主主義の価値を強調し、市民の参加と意見表明を促進しました。政策や問題について深く意見を出すことで市民が候補者の考え方やビジョンをよく理解できる機会となりました。



2023年度 NEXT5実行室 室長

山本 晃平

投票率の低さが指摘される若者世代に対し、政治に興味を持ってもらい、その声をより行政に届けやすくするきっかけ作りとして、今回の事業を行いました。当日は多くの方の目にとまり、YoutubeのLiveや、野外での実施など、難しい課題がある中、事業を実施することができました。



一方で、改善すべき点もいくつかあります。例えば、屋外でのイベントは音声や視認性の問題が生じやすく、適切な音響設備や視認性確保の工夫が必要でした。また、討論会の時間管理に関するルールや進行役の役割を明確にすることで、参加者の興味を持続させることができます。

こういった活動を踏まえ、より地域の方との繋がりをもち住みよいまちになるよう努めるのもJCの活動の1つです。

第52回

奈良ブロック大会

橿原大会

ひと

つる
の
未来へ

Come
by our
new locals

参加費無料

2024
6/29 sat.
橿原運動公園

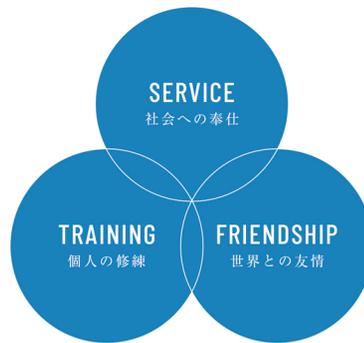
11:00 - 19:30

新入会員募集

■JC三信条とは

修練とは[Individual Training]つまり自己への啓発であり、
奉仕とは[Community Service]つまり地域社会への奉仕であり、
友情とは[International Friendship]つまり国際間の友情ということである。

青年会議所は活動の基本を「修練」「奉仕」「友情」におき、会員は「明るい豊かな社会を築き上げる」ことを共通の理念としています。また、会員相互の啓発と交流をはかり、公共心を養いながら、地域との協働により社会の発展に貢献することを目的としています。



■活動について

例会

1ヶ月に1~2回
出席義務有り

まちづくり運動となる「対外事業」や自分たちのスキルアップの為に「対内事業」、会全体の決め事を行う「総会」など全体で集まって行う事業です。

委員会

1ヶ月に1~2回
出席した方が良い

所属委員会のみ、少人数で行う会議です。ここで積極的に議論を重ね、まちづくり運動や対内活動のアイデアを練って、事業の構築を目指します。

懇親会

1ヶ月に1~2回
出席した方が良い

出席義務は有りませんが、メンバー同士の大切なコミュニケーションを培う場でもあります。積極的に参加し、親睦を深め、自己成長に繋がります。